

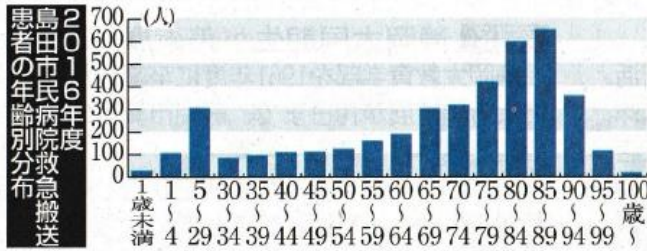
# 島田市民病院

# 救急患者高齡化進む

## 16年度 75歳以上53%

島田市民病院はこのほど、2016年度に救急搬送された患者の情報に関する集計結果を公表した。75歳以上の患者の割合は53・0%で、5年前に比べて3・8%増加し、同病院は「救急搬送される患者の高齡化が進んでいることがあらためて示された」としている。

(島田支局・南部明宏)



16年度に救急搬送された75歳以上の患者は2167人で、12年度から増加傾向にある。同病院によると、14年度に75歳以上の患者の割合が初めて50%を超え、以降は右肩上がりが続いているという。

16年度救急搬送患者(75歳以上)の初期診断名の内訳は、「肺炎」(8%)が最も多く、「一過性意識消失」(7%)、「心不全」(5%)が続く。同病院では09

年度から救急搬送患者のデータ化に取り組み、分析結果を公表している。救急車の不適正利用や、緊急性の低い軽症者が救急医療機関を利用する「コンビ二受診」などの問題を抱える中、救急搬送現場の現状について市民に考えてもらうのが狙い。同病院は「今後は分析結果を基に、医療体制の整備を進めていきたい」としている。

## 児童「胸骨圧迫は大変

川根本町の本川根小は7日、救急救命講習を同校で開いた。46年生28人が人が倒れるなどした時の適切な対処法を学んだ。島田消防署の担当者が講師を務め、119